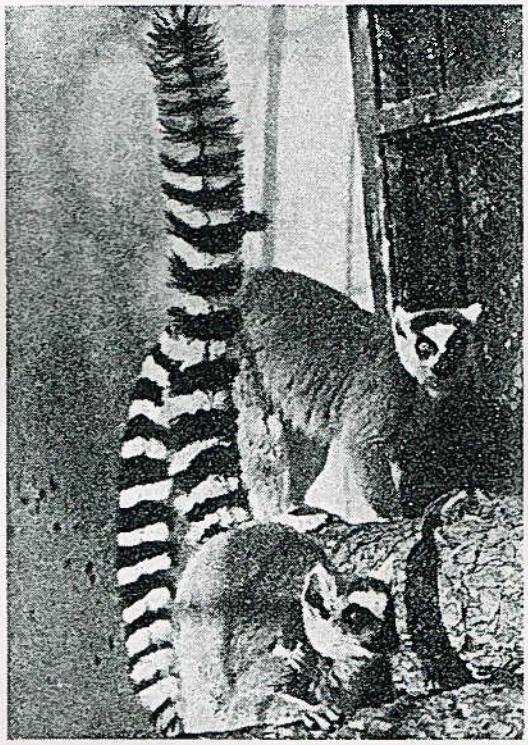
サル年雑感

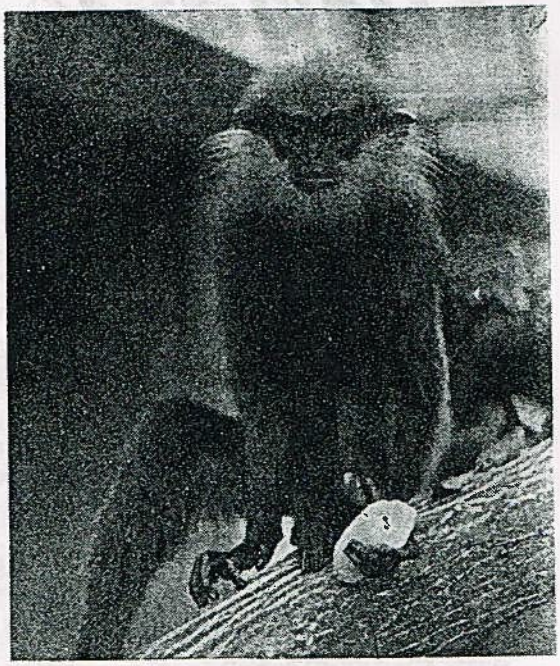
毎年のことながら、年末が近づくにつれて、特定の動物の問合せ、取材や写真撮影が増加してきます。今年はサルの撮影や、問合せに追いまわされています。特にゴリラやチンパンジー、お伽の国の人気者「サッチャン」などが人気の的になっています。これで来年は、サル年が廻ってくるのだなあとすぐにわかります。

今日のような超近代的な社会の中ででも、これとは対照的に、古くから伝承されている、十干十二支がいろいろと話題にのぼります。十干は甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸で表わされています。少し年配の人達なら、さしづめ昔の学校の通信簿が思い出されることでしょう。十二支は子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥からなっています。

近代社会を謳歌する若者たちの中でさえ、十二支（えと）による生れ年は、だれ一人知らない人はないくらいです。初詣の折にオミクジを引いても、運勢をみてもらっても、必ずこのえとが登場してきます。



これでもサルだ！　〈ワオキツネザル〉
——黒と白のリングはいくつあるでしょうか？
かぞえて下さい——



日本でただ一頭の貴重なサル
〈カオムラサキラングール〉

そもそも、この十干十二支（えと）は、古くから中国で考えだされ、発達したものですが、日本には約1300年位前に伝えられたといわれています。これが日本流に解釈されて、現在でも多くの人々の間にもてはやされているのです。人の運勢などのほか、方位か時刻を表わすことにも使用されてきました。

さて今年は申（サル）年、十二支ではこの字を使っていますが、中国では、サルを意味する文字に、私たちの知らないような難しい文字がたくさんあります。猨、狙、猿、猴、猴など、色、大きさ、性別、年令などによりこれらの文字を使いわけているようです。たとえば「猿は猴に似て、大にして黒し」とか「猴五百才に達すれば、化して猨となる」などとなっています。

われわれ人間とサルとは、動物分類学上、大へんに近いものですが、そのためか昔から、人に親まれ、人とサルとのかかわりあいは、非常に深いものがあります。子供の頃にきかされた「猿蟹合戦」の話や、西遊記に登場する「孫悟空」また人に処世の道をおしえた「見ザル、聞かザル、云わザル」など、いろいろなことがいい伝えられています。

さて猿類は、動物分類学上、霊長目(PRIMATES)とし、一般には動物の中で、最も高等なものとされています。PRIMATESは「第1のもの」といった意味を表わし、霊長は「万物の霊長」から由来したものです。

では霊長目に分類されているサルの仲間は、すべて高等なものかといえば、さにあらず下等なサル（原猿という）から高等なサル（類人猿、人をも含む）まで、大へんな差があり、ゴリラに代表される類人猿から、最も下等な、サルらしからぬサル、むしろ食虫類に近いようなツパイと呼ぶサルの仲間に至るまで千差

万別です。この下等なサルたちは、頭脳の程度もネズミよりも劣るといわれています。最も高等なゴリラ、オランウータン、チンパンジー、テナガザルの仲間を類人猿とよぶのに対し、ツパイ、キツネザル、ロリス、メガネザルなど下等なサルの仲間を総称して、原猿とよんでいます。

大きさにも大へんに差があり、体重わずか数十グラムしかないピグミーマーモセットから、成長したおすゴリラでは、二百数十キロに達するものまであります。

現在世界のサルは、約200種ぐらいに分類されていますが、このうち約100種のサルが、我が国各地の動物園で飼育されており、当園では現在18種が飼育されています。当園の飼育種類は大へんに少ないようですが、この中には、昭和45年に我が国で初めて繁殖に成功した、ゴリラのマック君や、はるばるスリランカのコロンボ動物園から送られてきた、日本ではただ一頭だけという珍しいカオムラサキラングールなど貴重なサルが含まれています。

京都近郊の嵐山や比エイ山などで、ごく普通にみられる「ニホンザル」は、名の示すとおり日本特産ですが、別名を「ホンドザル」とよんで、北海道には分布しておりません。このサルは動物学上、非常に貴重なもので、全猿類の中で最も北に分布し、わが国の青森県下北半島がその北限とされています。一般にサルは熱帯にすむ動物で、大へんに寒さに弱い動物ですが、ニホンザルは例外で、氷点下20度位の雪の中でも生活が可能です。

政権交代の終った猿が島

初代ボス　コウタロウ。現ボス　コガタ……。
――この政権闘争の階段を登りつめる次のボスはだれになるのだろう――

サルは大別して新世界ザルと旧世界ザル及び類人猿に分けられます。これらにはそれぞれ異った特徴がありますが、以下簡単に説明いたします。

新世界ザルは、アメリカ大陸に分布していて、熱帯降雨林にすむオマキザル科とマーモセット科の2科に分けられ、鼻の穴の間隔が広いところから、これらを広鼻猿とよぶことがあります。

新世界ザルの特徴は、尾をものに巻きつける特殊な能力をもっていることで、あたかも5本の手足をもっているようです。旧世界ザルや原猿類にも長い尾をもったものもいますが、このような器用なことはできません。またこれらの仲間のすべてが、樹上生活者で、手足の構造なども、それに適するよう発達しているわけです。

新世界ザルに対し、アジアからアフリカ大陸にわたって分布するサル類を総称して、旧世界ザルと呼んでいます。前者を広鼻猿としたのに対し、後者は鼻の穴の間隔の狭いところから、狭鼻猿と称されています。旧世界ザルの分布は広く、アジアからアフリカにかけてすんでいて、動物園の飼育ザルはこの仲間に入るものが殆んどです。

旧世界ザルの特徴は、第1に1対のシリダコがあることです。新世界ザルのほとんどが樹上生活者であるのにくらべ、地上生活を主とするもの、地上、樹上の両方にわたって生活をするものなど、さまざまな変化があり、シリダコもこれに関連して発達したものです。このほか、この仲間の多くは、頬袋をもっていて、一時食物をこの中に貯えておき、安全な場所で、ゆっくりと、この中の食物を小出しにして、食べる習性があります。

類人猿は動物分類学上、最もわれわれ人類に近い存在です。この中でゴリラ、オランウータン、チンパンジーの3種は、脳が大きく、知能がすぐれていて、そのしぐさなども人に大へんによく似ていますが、テナガザルの仲間は、地上を2本足で立って歩く以外、あまり人に似た感じはありません。

当園の人気者ゴリラのマック君は、昭和45年10月29日、当園で誕生したものですが、これは日本での最初の記録で、併せて完全な人工哺育に成功したことも大へんな貴重なものとなっています。今ではすっかり立派に成長し、お嫁さんとも仲睦じく生活していますので、近い将来可愛らしいベビーが誕生することをたのしみにしています。

また猿島も大へんな人気ですが、昨年10月末に突然政権交代劇が行われ、これまで権力をほしいままにしていたボス「コウタロー」は、王座決定戦に敗れ、全身に咬み傷を負い、若オスの「コガタ」にボスの座を引渡しました。

カオムラサキラングールもただ1頭だけですが、今年は努力して、スリランカから新しい仲間を是非迎えたいものだと考えています。　（M.N.）